

東京の送電線工事会社 蔵王で研修

電力インフラ維持志高く

角材を足場に見立て、高所での動きを学ぶ新入社員ら



送電線工事を手がけるETSホールディングス(東京)は20、21の両日、蔵王町宮の仙台機材センターで、新入社員12人が鉄塔に初登りする研修を実施した。電力インフラを支える仕事をアピールし、人材確保を図ろうと初めて公開した。

初日は新入社員が先輩と一緒に鉄塔の高さ3層部分まで登った。ロープなどでしっかりと安全を確保する大切さや、高所で作業する際の体の動かし方などを学んだ。2日目は高さ30層の最上部に挑戦した。同社は東北電力の仕事が多く、蔵王町で毎年研修を行っている。職種は送電線工事中心の「ラインマン(電工)」と施工管理に分かれるが、ラインマンはなり手が少なく、今年の採用者は東北送電事業本部(仙台市)に配属される会津若松市出身の吉村優生さん(18)の一人だけという。

吉村さんは2011年の東日本大震災を機に電気の大切さを痛感し、インフラを支える仕事を志望した。「全国で約4000人しかいない、かけがえのない仕事。高校時代は運動部で体力には自信がある。全国各地に仕事で行けるのが楽しみ」と張り切っている。

同社によると、送電線工事業は力仕事に加え、月単位の長期出張があり、休みも多くない。広報担当者は「休みとWiFiが必須の若者をどう呼び込むかが課題」と頭を悩ませる。

研修で講師を務めた東北送電事業

本部の佐藤和彦さん(50)は、新入社員の定着を願って現場の苦労を包み隠さず伝えた。「風、寒さ、暑さにさらされる過酷な仕事だが、絶対に必要な仕事。経験を積み、将来の電力インフラを支えてほしい」と期待を寄せた。



地上3層の高さまで鉄塔を登った新入社員ら

新入社員12人 鉄塔初登り